FURUGAKI

取扱説明書

水中ブレーカー

株式会社 古垣建設

〒046-0011
北海道余市郡余市町入舟町１２６番地

電 話：0135-22-5578
FAX：0135-22-5050
E-Mail：info@furugaki.info

はじめに

この度は、弊社製品を採用いただきましてありがとうございます。

この取扱説明書は製品の性能をよく知っていただくために必要な取り扱い方法、及び点検、整備方法について説明してあります。

当製品をご使用の前に必ず本書をよく読み理解した上で安全な作業をしてください。

注意表示について

⚠ 危険	＝	危険が回避されない場合に重大な傷害、または死にいたる可能性が大きい時。
⚠ 警告	＝	危険が回避されない場合に重大な傷害、または死にいたる恐れのある危険な状況が潜在している時。
⚠ 注意	＝	重大にはいたらないが、傷害の発生となる可能性がある時。
重要	＝	機械の取扱い上、機械自体の寿命を延ばすために留意点を示すものです。シンボルマークとは区別しております。

⚠ 警告

本機械を不用意に使用すると、重傷もしくは死亡につながる事があります。

本書の説明をよく読んで、機能・性能を十分知った上で運転してください。

本書を手元に保管し、繰り返し読んでください。

本書および本体貼付けのマーキング、コーションプレート等の紛失、または、損傷で見えにくくなった時は、速やかに弊社へご注文いただくようお願いします。

本製品を他へ譲渡される時は、必ず本書を添付してください。

使用にあたり不明な点がありましたら、遠慮なく弊社へお問い合わせください。

水中ブレーカーをご使用するにあたって

水中ブレーカーは使用上、下記の項目に十分な注意を払っていただき、取付・使用をお願いいたします。

【取付方法と必要機材】

水中ブレーカー

付属エアーホース（ゲージ付）

レンタル品

配管付バックホウ（各メーカー可 コンプレッサー（25HP以上）

エアーホース

現場でご用意いただく機材

取付方法は

①バックホウのバケット部を外しブレーカーを取付、その後ブレーカー本体から繋がっている油圧ホースをバックホウへ繋いでください。

②バックホウへ取付けたブレーカー本体に同梱されています付属エアホース（細）をブレーカー本体のエアー差込口の根本まで差し込みバンドで留めてください。

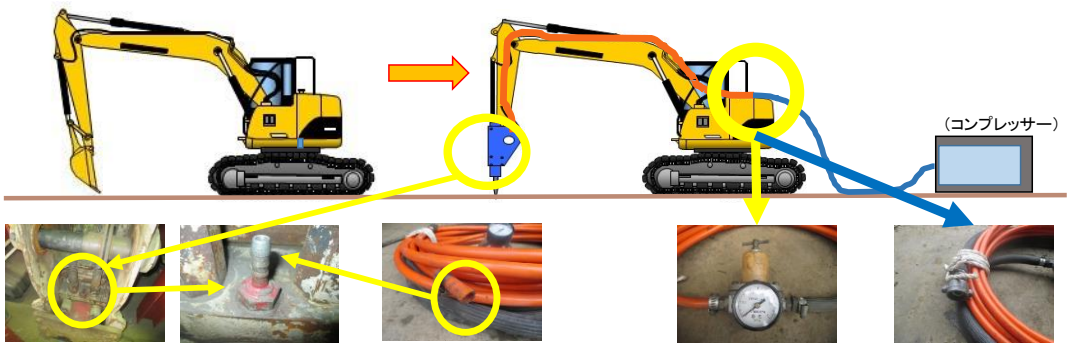
③本体へ取り付けた付属エアーホースをアーム、ブームを経由させバックホウキャビン後方に持っていき、作業に支障の無い場所へ留めてください。

アーム、ブーム等の可動部分については長さに余裕をもって取り付けてください。また、必要箇所同梱の結束バンドで留めてください。

④付属エアーホース端部のエアゲージ（またはエアゲージを経由したエアーホース端部）にコンプレッサーからのエアーホースを繋げてください。

以上で取付は完了です。

※エアーホースにはエアーゲージが取付けられています。各バックホウの掘削半径を考慮し設定をしています。コンプレッサーを接続後、ゲージが0.2MPaになっていることを確認してください。ブレーカー内に送る空気量、圧力が適格でない場合は性能の低下、ブレーカーの破損、バックホウの重大な破損につながります。



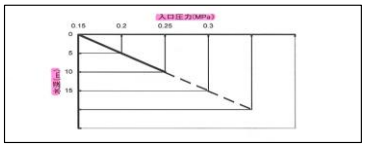
【ベースマシンとコンプレッサーについて】

ベースマシンはブレーカー配管機をご用意ください。

コンプレッサーは1.6m3／min以上の物をご用意ください。エアホースはベースマシンとコンプレッサーの距離を考え余裕を持ってご用意ください。

ブレーカーに送る空気量については下記の表を参照してください。

仕様 ＼ 機種	F12	F19 F22,F27	F35,F45	F70
吐出空気量 (m^3/min)	1	1.6	2	2.5
吐出空気圧 (MPa)	0.55～0.7	←	←	←
コンプレッサ馬力 (kW)	8.8	12.5	17	18.8



【使用方法】

使用上の注意として以下の事を守ってお使いいただくようお願いいたします。

陸上ブレーカーと同様のご使用方法、禁止事項を確認いただき厳守いただくようお願いいたします。

水中ブレーカーはピストン内部に水が流入しないようコンプレッサーのエアー供給が必要となります。使用時は常にエアー供給が行われている事を確認しながらご使用ください。なんらかのトラブル（コンプレッサーの燃料不足等のエンジン停止など）があった際はすぐに水中から本体を出してください。

使用中はコンプレッサーから送られたエアーが小さな気泡となって水面にでてきます。オペレーターの方には常に気泡を確認しながら作業をしていただくようお願いいたします。

コンプレッサーとベースマシンを繋ぐエアホースに注意してください。ベースマシンが移動することでよじれが生じたり、誤ってベースマシンで踏んでしまうようなことがあると空気が供給されない場合があります。

エアー供給の停止した状態、不足してい状態でブレーカーを使用し続けるとブレーカー本体だけではなく油圧ホースを伝いバックホウ本体まで水が回り 重大な破損を招く事があります。

水中ブレーカーを使用する際はチゼル先端が見えにくい場合でもチゼルを使用し「こじる」作業や、「垂直以外の極端なチゼル角度」で使用するとチゼルの折れや本体故障の原因となります。

水中で使用する際に少し見えにくい状況かと思いますがチゼル先端部は破砕物にしっかりと押し当てた状態で打撃してください。「空うち」は故障の原因となります。

使用中に油漏れ等が発生した場合は速やかに使用を停止してください。